

THE COLORS

ISSUE 31 ARCHITECTS





colors つつまれる

+S タスエス

東京都杉並区西荻北1-9-20-201
03-6325-8426
<http://www.tas-s.com/>



松下慎太郎

鈴木崇志

三角屋根の家型の外観が印象的なお宅。それをふたつに分割し、間にもうひとつの空間をプラスした構造である。正面から見ると両サイドの三角屋根部分と“大きな隙間”という構成が、その外壁の色づかいからも見てとれる。駐車スペースと応接間を配置した“隙間”部分は、外壁も内装も白を基調としてデザインされ、外部とゆるやかにつながる開放空間の役割を担う。

デザイン関係のお仕事をされている建て主ご夫婦は、住まいのデザイン、家具の色などに強いこだわりをお持ちだったそう。そこで両サイドは内装や家具にも濃い目の色を配して、住む人の意思表示を色彩計画によって実現した。外壁は3色のガルバリウムを組み合わせて使用することで木の柱目をイメージし、濃い色ながら木目のようなやわらかさを醸し出すことに成功した。

「外観デザインは、周辺の環境にどの程度なじませるかを考えます」と建築家の松下さん。「白を基調とした外観は周囲になじみやすく無難ですが、ここでは主張のある外観を表現

colors あそぶ



するために、濃い色をセレクトしました」

タスエスは松下さんと鈴木さんの二人三脚で設計をこなすが、あくまでも主役は建て主さんだ。住む人の好みを反映する手段として色を使う。

ひと部屋ごとにテーマカラーを決めて色分けしたのが右の写真のお宅。広々とした周辺環境を活かして、家全体はさまざまな方向に抜けを設けて外部に開放したつくりとし、キッチンがグリーン、和室は温かみのある黄土色というように小さな個室部分に色を配した。カラー部分を建て主ご家族と建築家との共同作業で仕上げたことで、いっそう愛着のある住まいになったという。

内装は白やナチュラルカラーで仕上げておいて、あとから持ち込む家具や装飾でそのときどきの好みを表現するという考え方もあるが、床・壁・天井自体に色を付けることで、「自分の家」という感覚は強まるのかもしれない。「無難に仕上げるより、建て主の個性が表現された家をめざしているいるな挑戦をしています」(松下さん)



© photo by Hiroyuki Hirai



スカイツリーから徒歩5分ほど、日本一高い634mの鉄塔を見上げるロケーションに、1階が駐車場、2～4階が事務所と倉庫、5・6階を住まいとした6階建ての建物が完成した。住宅街のため住まいは壁で覆って落ち着いた空間に仕上げ、螺旋階段で上がる屋上は外部への開放空間として、スカイツリーの眺望が思う存分楽しめるようデッキを設えた。

内装は自然光が作り出す陰影が最も生きる白がベースだ。壁と天井をひと続きにして随所にアールを取り入れるのは石川さんが得意とする手法。アールの壁面が光の陰影をより効果的に演出する。「光の入り方や陰影ま



では設計段階では想像できないですね。できあがってみて光の具合を見るのも楽しみのひとつ」と石川さん。壁と天井に連続性をもたせると覆われた感覚が生まれて落ち着いた空間がつかれるという効果もある。

色彩計画は、建て主が選んだダークブラウンの家具に合わせて、造り付けの棚やカウンターなどはダークブラウンで統一。フローリングの床は白の塗装でナチュラル感をあえておさえた。「色の分量のバランスには気を配ります」と石川さん。色数をおさえた室内で、ダイニングスペースに取り付けたペンダント照明のワインレッドが印象的だ。



「おぼろげなイメージ」を形にしてゆく計画段階では、平面を考えるのと同じくらい断面に気を配りながら、設計を進めています。

具体的には、空間のボリュームや、機能的な繋がり、光の取り入れ方などを立体的にイメージしながら設計を進めるということなのですが、平面、断面、パース、模型を同時に眺みながら、最終的な形状を決めるように心掛けています。特に開口部とその周りの形状は、空間を形づくる上で、大事な要素と考えます。

壁面、天井面への光の廻り方などは、ある程度の予測をしながら計画しますが、微妙な陰影やグラデーション、色彩の変化、光量や反射光など、開口から自然光が入った時に初めてわかる部分も多くあります。そういった予期せぬ部分も含めて、空間に表情を与える部分は、できるだけ光に委ねられればと思います。

内装を決める上では、当初から「家具はダークブラウン色」というのが、お客様の中で明確になっていましたので、これに寄り添うように素材、色決めを行いました。

全体的に白を基調にした空間に家具のダークブラウン、それに呼応した色を木製扉に採用し全体の色調を整えました。特に床のフローリングに関しては、木材そのものの色ではなく、白色の染色を施した表情のものとなりました。ダークブラウン色との馴染みも良く、空間全体としてはモノトーンの中にもメリハリが上手く表現できたのではないかと思います。

設計当初からできるだけビジュアルに訴えるようにプレゼンしますが、現場で何らかのインスピレーションがあるとすれば、それを最終的な完成形に盛り込んでゆく余白が必要ではないでしょうか。そういったお客様とのやり取りの積み重ねで、住空間がより身近なものへと昇華してくれることを願っています。

石川利治

3 * D
HTTP://WWW.A-0DD.COM

PRESIDENT
TOSHIHARU ISHIKAWA
3*D ARCHITECTS INC.
602 7-2-17 AKASAKA MINATO-KU
TOKYO JAPAN 107-0052
TEL:03-5772-6522
FAX:03-5772-6523
INFO@A-0DD.COM

ホームページ・Facebook公開中！

お問い合わせは下記連絡先までお願いします。

アイオーシー株式会社
 東京 〒107-0062 東京都港区南青山 6-10-18 B1F tel:050-3343-5478 fax:052-930-3502
 名古屋 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-6-7-3F tel:050-3343-5478 fax:052-930-3502
 公式サイト <http://www.iocjapan.biz> Facebookページ www.facebook.com/iocflooring

IOC collaboration
 oriented
 interior



市村宏文

株式会社エルスト
東京都中央区八丁堀4-14-7ウィンド八丁堀ビル703
050-5539-9699
<http://facebook.com/erst.ichimura>

ブラインドをオリジナルで。
朝焼けをイメージした
グラデーション。





北島俊嗣

株式会社北島建築設計事務所
横浜市中区太田町1-18-2-7F
045-212-2547
<http://kitajima-architecture-design.com/>



冷たい感じの
クリニックを
温かいイメージに
しました。



河辺 近

ken-ken inc., 一級建築士設計事務所
横浜市中区海岸通4-24 万国橋SOKO 301-B
045-222-8303
<http://www.ken-ken-a.co.jp/>

ステンドグラス作家・
宇留賀正樹さんの作品。
釣り好き家族のための登り魚！
火災から家を守ります。





角倉 剛

有限会社 角倉剛建築設計事務所
東京都渋谷区代々木4-19-14
ニューハイツ切り通し301
03-5304-8848
<http://www.smkr.jp/>



保育園の床と壁。
赤のコルククリノリウムで
仕上げました。



古川達也

古川都市建築計画 一級建築士事務所
横浜市中区根岸町3-176-90-312
045-623-8994
<http://furukawa-arch.com/>

ホビールームの
レッドカーペット。
大切な小物が
はえます。





南部健太郎

Ar.K一級建築士事務所
東京都品川区上大崎3-5-4 第一田中ビル401
03-3443-6553
<http://www.ar-k.net/>

グローエのシャワーヘッドを
アクセントに。





滝川 淳

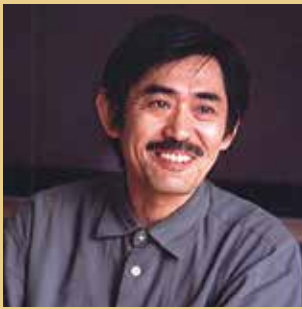
コネクト 一級建築士事務所
東京都中野区新井4-15-5-403
03-5942-7367
<http://connect-arch.net/>



ブルーに包まれる。
モザイクタイルだけで
創る空間。

colors

建築家9人のこだわり



田邊恵一

株式会社田辺計画工房
東京都目黒区鷹番2-16-12 3F
03-5768-2878
<http://www.td-atelier.co.jp/>

タイルで変える空間イメージ

タイルには磁器や陶器、ガラス質の物もあります。どれも自然素材の「粘土」や「鉱物」から火がつくり出す永遠の自然素材です。そしてタイルは塗装にはない「色彩の深み」と「風合い」「素材感」を持っています。永年の間に色あせない上質さを感じるゆえんでしょう。

タイルを多用する場所としては浴室等が主に考えられますが、タイルの魅力を引き出す場所はほかにも多くあります。床や壁だけでなく、家具にも使うことができます。タイルには空間の空気を彩る力がありますから、私の場合、モザイクタイルであったり温もりを感じるタイルを、機会があるごとに空間を彩る主役として使っています。皆さんもタイルの魅力を再発見してみませんか。



タイルで彩る生活空間

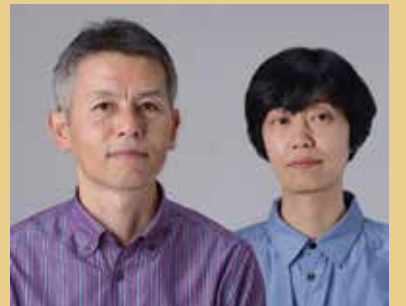


好きな色を随所に取り入れた住まい

生活の中に好きな色を取り入れたいという建て主の方のご要望に応え、随所にフェイバリットカラー(青、ゴールド、ピンク)をちりばめた住宅です。ガラスモザイクタイル、カラーガラス、ラメ入りの布クロス等、素材感を活かしたカラーで彩られています。

玄関扉は、ガラスモザイクタイルを貼った扉です。光によってさまざまに変化するその表情がより活きるように、床は色調を抑えたマットな大判の磁器質タイル(Styleスペース(B)/平田タイル)で対比的に仕上げました。

洗面コーナーは、透明感のあるブルーのガラス洗面器が映えるように、ガラスのような煌めきのある白いモザイクタイル(HB-102/平田タイル)で背面の壁を仕上げました。



石井正博+近藤民子

設計事務所アーキプレイス
東京都渋谷区本町1-36-11 ドエルヤマト302
03-3377-9833
<http://www.archiplace.com/>



Hi-Ceramics
Color&Design

株式会社 平田タイル
[東京ショールーム] 東京都中野区本町1-32-2
ハーモニータワー1F
[大阪ショールーム] 大阪市西区阿波座1-1-10
<http://www.hiratatile.co.jp/>



木原ツトム・後藤栄子

トゥイズムデザインスタジオ 級建築士事務所
東京都台東区谷中6-3-3
03-5842-1626
<http://tw-ism.com>

築30年の中古住宅を購入し、1階を事務所に2階を住まいとしてリフォームした。設備を入れ換え、建具を交換し、内装は家族にも加わってもらって自分たちで塗装して、ようやく支障なく生活できるところまでこぎつけた。ここは木原さん、後藤さんお二人が営む設計事務所トゥイズムの仕事場兼生活の場、そして「実験住宅でもあるんです」という。

設計の打ち合わせの際に、図面や言葉だけでは伝わらないことがある。特に内装の色や素材は、小さなサンプルで見ると実際の壁面になったのでは印象がまったく違う。できあがって「こんなはず

ではなかった」と思ったり、提案の内容をなかなか理解してくれなかったり、そうしたことを回避するために、ここをショールームがわりにして、実際に体感してもらおうというのが狙いだ。部屋の広さ、天井の高さ、キッチンカウンターの高さ、家事の動線、内装の色や素材など、本当に生活をしている場だから実感がわく。

壁の色を黄色、オレンジ、ブルーと部屋ごとに変えたのもそんな理由から。今まで使ったことのない素材も積極的に採用して、まず自分たちが使い心地を試す。自分たちが体感することで、新しい提案にも説得力が生まれるというわけだ。



「10年住んだら壊して建て替えると決めているので、もうやりたい放題(笑)」そのやりたい放題ぶりを写真でご覧いただこう。背比べの柱のキズも気兼ねなし。食洗機の扉にはお子さんが絵を描いた。訪れる人が目を見張るそのでかさは、ちょっと評判になっている。

ダイニングテーブルは、ロシアンパーティのレイヤーフェイスを使用した特注品だ。合板の継ぎ目をテーブルの表面に出す手法が面白かったので採用した。

カラフルなイームズチェアは、実は本物と偽物が混在しており、座り心地にど

んな違いがあるのか検証中。

大きなスツール状の椅子は、家具デザインコンペのためにトゥイズムがデザインした「オットマンチェア」。まっすぐ並べたり、円形に並べたり、ひとつひとつ単品で使ったり、フレキシブルさが魅力。張り地の配色でインテリアの雰囲気も変えられる。

マグネット塗料にも挑戦してみた。3回塗りしたもの、仕上げに黒板塗料を塗ったら吸着力はいまひとつ。まあそんな失敗も実験の成果なわけで、説得力にはつながりそうだ。



住まいに色や素材を取り込むことには、どんな効果があると思いますか？
色といっても、壁や天井・床、外壁や家具などの目に見えるものだったり、なんとなく漂う空気感やそこからイメージする色もあります。また、アクセントとしてただ表面に塗るだけではなく、上下階の同じ位置にある壁に同じ色を塗ることで壁の連続をイメージさせたり、水廻りや寝室のようなある領域をボリュームとして見立て、その外側を色や木などの素材の箱として作り表情を持たせることで、内部の用途や建物の構成を視覚的に認識できるようにしたりと、その効果はさまざまです。

私たちは建物を、色分けした積み木のように上から見る視線は持ちませんが、これらのいろんな色や素材を取り込むことで全体の構成が見えてきたり、自分がいる場所を立体で認識させたりすることが可能です。また特徴のある仕上げを連続させることで奥行きや広がり感をもたらし、室内に持ち込まれるいろいろなモノの背景として惹き立てるなど、色や素材にはいろんな効果があるものです。

ではどうやってその取り込む色や使い方を決めるのか。
いろんな可能性が考えられますが、実際に設計していく時には「どんな暮らしをしたいか？」という話をしていくにつれて見えてくる色があります。

建物全体に色を取り込んだ事例として、最初の要望が「緑にこだわりたい。」だった家があります。(写真右)

緑色が好きで落ち着くという話もありましたが、いろんな話をしていくうちに、緑を育てることができる庭やその庭の緑を楽しむゆとり、材料を選定する際の環境資源への配慮や性能を確保するための屋上緑化など、目に見える色より全体を通しての印象や空気感としての優しい色だということが見えてきて、緑の中庭を囲う家として提案しました。

内部のどこにもお互いが見える大きなワンルームLDKではなく、庭を挟むようにリビングとダイニングキッチンを少し分けてお互いの気配をゆるく感じられるように配置したり、庭へも縁側のように足を下せる縁側リビングと、そのままハーブを育てる庭に繋がる土間キッチン。そしてテラスを野芝で緑化するという場所の作り込みと、それらの場所に繋がる趣味室などの用途を限定する部屋の外側は薄緑に着色し、さらに奥には少し濃い緑の壁を作るなど、緑の空気感の中に実際の色の効果も重ねることで、全体に共通する色として概念的に緑を取り込む住まいとなっています。

もう一つの事例は、純粋に好きな色を取り込んだ住まい。(写真左)

この住まいも「緑を取り込みたい」という要望がありましたが、こちらはゆるく流れる空気の色ではなく、自分たちのお気に入りのモノに囲まれた空間を作って好きな色を取り込みたい、という目に見える色の計画でした。

生活のスタイルやイメージをはっきりと持たれていたので、ここでは理想とするライフスタイルのための空間を引き立てる「地」となる壁を設定し、そこに色を使うことにしました。具体的には(写真のように)、階段室に繋がる、3層にわたり連続する壁面を緑色とし、どこにいてもこだわりの色が背景として見えるように計画しています。住まいのこだわりを主張すると同時に、分断しがちな3層の空間をダイナミックに繋げる効果を発揮しています。

同じ「色」の話でも捉え方や使い方によってもたらす効果はさまざまですが、この色の部分を木や鉄といった素材として取り込んでいくことでもいろいろ効果をもたらし、豊かなメリハリのある空間をつくることができます。黒白写真がカラー写真より色彩豊かに感じられることがあるのと同じように、その人の持つ色のイメージを引き出す効果だと思います。

例えば木を使って住まいが呼吸するような優しい環境を作ったり、少し荒い目の木や合板を使うことでダイナミックな空間になったり、鉄を組み合わせることで少し

色の効果

シャープなイメージがプラスされるといった効果もあります。そしてその空間を、白い空間、黄色い空間、青い空間のようなある色彩を持った空間として認識しているように思います。表材の使い方や組み合わせはたくさんあり、その最適解を見つけるためには、設計中や現場でもサンプルを並べてみたりスケッチを描いてみたりと多くの時間を費やす部分でもあり、家づくりと一緒に進める時には存分に楽しんでもらいたい過程でもあります。

ただ、どんな作り方をする場合でも、住まいは生活を楽しむための「地」であり、主役ではないと考えます。また色や素材などの仕上げる効果だけでも最適な住まいは完成しないものです。

その後の暮らしに取り入れたいものや理想とするライフスタイルに馴染む主張しすぎないバランスを大事に、仕上げも含めた住まいそのものが生活や気持ちにメリハリをつけ惹きたててくれる、そんな最上の効果を作りだすことができれば最高だと考えています。



一條美賀

一級建築士事務所 まんぼう
東京都渋谷区富ヶ谷2-19-8 松涛マンション602
03-3466-7850
http://www.mambo-aa.jp/



建築家31会協同組合とは、

一級建築士の資格を有した組合員が自立・独立した立場で、適切な建築設計・監理を行うことを通して、建主の健康及び財産の保護と豊かな社会環境の実現に努めています。

建築家の職能(役割)の確立と認知は、いまだ不十分であることから、志を同じくする建築家が集まり、研鑽し、行動を束ね合わせることで社会に広く確実な啓蒙を行い、建築家の役割を確かなものにしていくために、模型展や相談会などの活動を通して、Face to Faceの繋がりを大切に活動しています。

建築家31会(さんいちかい)の活動は、その発足から3年が経った2014年3月31日に、これまでの任意団体から「建築家31会協同組合」として法人化(国土交通大臣による許可)し、社会において確かな存在を築いています。

**建築の設計・監理を専業とする
独立した建築家の集まりです。**

世界のデザインタイルで魅力あふれる空間を



タイルはキッチン・洗面など水廻りの使用だけでなく、リビングの床・壁そして家具に、建築資材の垣根を越えインテリア素材として個性を演出しています。海外のトレンドを追求する平田タイルのショールームには、世界のタイルと最新情報が満載です。

株式会社 平田タイル 東京ショールーム
図 10:00~17:00
図 水曜、祝日、夏期、年末年始
東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー1F
TEL 03-5308-1135 URL http://www.hicera.jp/

無料で気軽に聞ける! 住まいの駅前相談窓口



決断が難しい住まいのこと、ネットや口コミ頼りで大丈夫でしょうか。建築士など専門の資格を持った経験豊富な住まいのプロに気軽に相談できる窓口です。しかも無料!

<問い合わせなど>
東急電鉄 住まいと暮らしのコンシェルジュ
目黒店 TEL 0120-071-109
二子玉川ライズ S.C.店 TEL 0120-186-109
鷺沼駅前店 TEL 0120-273-109
たまプラーザテラス店 TEL 0120-312-109
武蔵小杉東急スクエア店 TEL 0120-572-109
URL http://www.tokyu-sumaitokurashi.com

東京ガスの家庭用燃料電池「エネファーム」



燃料電池の技術を利用し、都市ガスを使って自宅発電する「エネファーム」。発電時に出る熱を捨てずにお湯も一緒につくります。オプションを設置すれば、発電時でもエネファームが発電を継続して、電気を供給することが可能です。

東京ガス株式会社
TEL 0120-593039
図 9:00~19:00(日曜・祝日を除く)
URL http://www.tg-enefarm.com

※画像はイメージです。実際の設置とは異なります。

新しい魅力を発見「住まいと暮らしの体験館」



エネファームをはじめミストサウナや床暖房、ピピッとコンロなど、ガスの最新設備を気軽に体験できる開放的な空間になっています。

東京ガス横浜ショールーム
TEL 045-650-6630
図 10:00~20:00 図 年中無休

東京ガス新宿ショールーム
TEL 03-5381-6000 図 10:00~18:00
図 水曜(祝日の場合は営業)、年末年始、夏期

URL http://home.tokyo-gas.co.jp/showroom/

※画像は横浜ショールーム



www.kenchikuka31.net/

UNION OF 31 ARCHITECTS



from Editors

編集後記

ISSUE 31 Architects vol.3 [THE COLORS] をご覧いただきありがとうございます。住まいの居心地の良さは機能的なものでなく、素材と色彩によっても実現することができます。モノの色彩・素材が重なりあい、豊かな住まいを演出する [THE COLORS]。家族一人一人の個性を彩るもの、家族の思いを込めたもの、描いた未来に寄り添うもの、心地よい色、その表現はペイントだけでなく、もっと多様に生活を包み込むものです。空間の演出家でもある建築家と彩りのある家づくりを楽しんでみませんか。

(編集長 標 由理)

発行元 建築家31会協同組合 出版委員会
編集長 標 由理
編集 田邊恵一 松永基 佐藤剛 高野洋平 南部健太郎
編集協力 谷口裕子
表紙写真 田邊恵一
協賛 株式会社平田タイル 東京ガス株式会社 IOC株式会社 東急電鉄 住まいと暮らしのコンシェルジュ

建築家31会協同組合 出版委員会
http://kenchikuka31.net/
横浜市中区海岸通4-24 万国橋SOKO 301-b TEL 045-680-5339

TIME SPACE Architecture

千石の二世帯住居 旧作への思い

ギルドデザインは、今年で22年目を迎えました。現在は磯村と政本の2人の共同事務所ですが、もともとは3人で設立した事務所でした。

この「千石の二世帯住宅」の設計監理をしていた15～7年前は、まだ3人の頃で、3人が共同して設計コンセプトをまとめていたのを懐かしく思い出します。

設立当初から都内での仕事が多く、狭小敷地や商業地域内の住宅など、住宅として敷地条件が厳しいものが多かったのですが、この家もいわゆる旗竿敷地で、周囲を中高層ビルで囲まれてもおかしくない場所でした。

子世帯からの要望が強かった採光や通風、くつろげる屋外空間、プライバシーという課題に対して、2、3階の子世帯フロアを、細長い2棟が向かい並ぶ中庭(デッキテラス)に、ポリカーボネートの屋根をかけるというプランで解決しました。

ポリカーボネートの屋根の下は、陽射しが入り、風が通り抜ける外部空間です。すべての部屋がこのデッキテラスに向かうことで、ここは、プライバシーの高いvoidなcoreとなっています。

特に居間と食事はデッキテラスを挟んで向かいあっており、全開できる窓を開放すれば、外部デッキテラスを取り込んだ一体の開放空間にすることができます。お風呂にも全開窓があり、涼むためにデッキテラスに出ることだってできます。

1階は親世帯です。南の庭と北の庭、可変間仕切りとしての天井までの障子、開放された欄間などから、コンパクトな居間と食事空間を、広く使っていただけるよう仕掛けしています。

「千石の家」は竣工が2000年で、今年で15年になります。訳あって、我々の設計クライアントはこの家を手放されましたが、引き継がれた方から、補修のための相談がありました。工事をした工務店さんも廃業していましたが、担当した監督さんを紹介して、この夏に補修工事を行いました。15年も経てば補修工事にもなります。新しいご家族も、この住まいを大切にしてくださっていて、とてもうれしいことです。

住まいを設計するということは、個人の財産を守り、長く関わりを持つことでもあります。そして、自分たちの設計の履歴を振り返ることにもなっています。

「千石の二世帯住宅」はそんなことを考えさせられる一つの住宅になっています。

磯村一司+政本邦彦

ギルド・デザイン

東京都渋谷区代々木2-26-1 1桑野ビル1-B

03-3375-3745 <http://www.guild-design.com/>

